

## Ⅱ 作物別作付（栽培）面積

### 1 水陸稲（子実用）

#### (1) 水 稲

平成26年産水稲（子実用）の作付面積は157万3,000haで、前年産に比べて2万4,000ha（2%）減少した（表7）。

作付面積の動向をみると、昭和44年の317万3,000haを最高に、昭和45年以降は生産過剰基調となった米の需給均衡を図るための生産調整が実施されたこと等から、減少傾向で推移している（図4）。

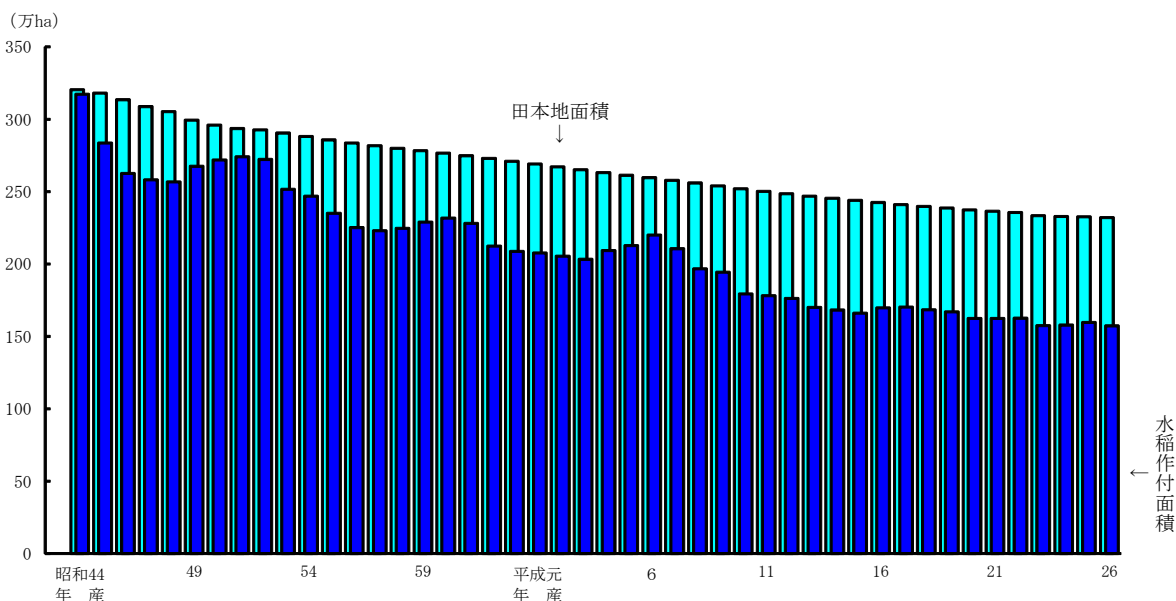
#### (2) 陸 稲

平成26年産陸稲（子実用）の作付面積は1,410haで、前年産に比べて310ha（18%）減少した（表7）。

表7 平成26年産水陸稲（子実用）作付面積（全国農業地域別）

全 国 農 業 地 域	水陸稲計			水 稲			陸 稲		
	作 付 面 積	前年産との比較		作 付 面 積	前年産との比較		作 付 面 積	前年産との比較	
		対 差	対 比		対 差	対 比		対 差	対 比
	ha	ha	%	ha	ha	%	ha	ha	%
全 国	1,575,000	△24,000	98	1,573,000	△24,000	98	1,410	△ 310	82
北 海 道	111,000	△ 1,000	99	111,000	△ 1,000	99	-	-	nc
都 府 県	1,464,000	△23,000	98	1,462,000	△23,000	98	1,410	△ 310	82
東 北	402,500	△ 3,700	99	402,500	△ 3,700	99	x	x	x
北 陸	212,500	△ 200	100	212,500	△ 200	100	3	0	100
関 東・東 山	294,200	△ 6,400	98	292,800	△ 6,100	98	1,400	△ 300	82
東 海	99,700	△ 2,600	97	99,700	△ 2,600	97	x	x	x
近 畿	108,000	△ 1,400	99	108,000	△ 1,400	99	-	-	nc
中 国	112,600	△ 2,600	98	112,600	△ 2,600	98	-	-	nc
四 国	55,300	△ 1,100	98	55,300	△ 1,100	98	-	x	x
九 州	178,200	△ 5,300	97	178,200	△ 5,300	97	x	x	x
沖 縄	860	△ 30	97	860	△ 30	97	-	-	nc

図4 水稲（子実用）作付面積の推移



## 2 麦 類（子実用）

### (1) 4 麦計

平成26年産4麦（子実用）の作付面積は27万2,700haで、前年産に比べて3,200ha（1%）増加した（表8）。

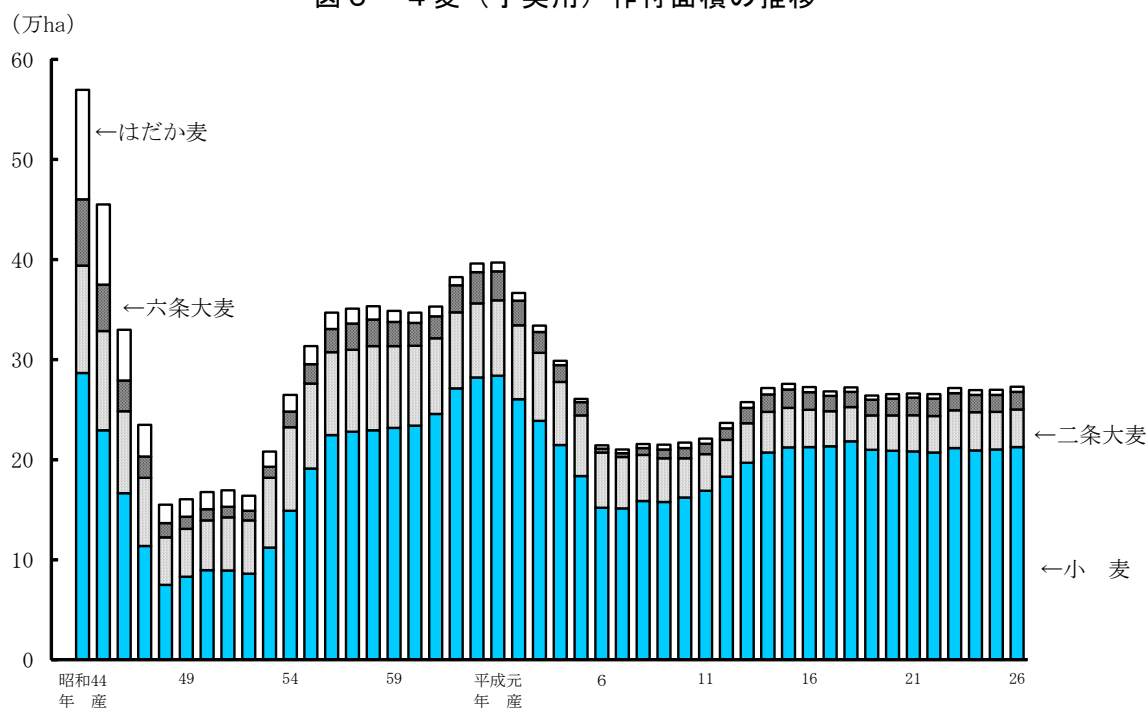
麦種別には、小麦は前年産に比べて2,400ha（1%）、六条大麦は400ha（2%）、はだか麦は240ha（5%）それぞれ増加し、二条大麦は前年産とほぼ同数となった。

作付面積の動向をみると、昭和40年代は作付農家数の減少、水田裏作の減少等により年々大幅な減少を続け、昭和48年には15万4,800haと過去最低となった。その後、麦の生産振興策が講じられたこと、米の転作作物として田作小麦が増加したこと等により、平成元年には39万6,700haとなった。平成2年以降は作柄が不安定なこと、水田裏作の減少等により再び減少し、平成7年には21万200haとなった。平成8年以降は米の需給調整対策の推進等に伴い再び増加傾向で推移したが、平成14年以降はほぼ横ばいとなっている（図5）。

表8 平成26年産4麦（子実用）作付面積（田畑別）

区 分	計			田			畑		
	作 付 面 積	前年産との比較		作 付 面 積	前年産との比較		作 付 面 積	前年産との比較	
		対 差	対 比		対 差	対 比		対 差	対 比
	ha	ha	%	ha	ha	%	ha	ha	%
4 麦 計	272,700	3,200	101	168,700	2,100	101	104,000	1,100	101
小 麦	212,600	2,400	101	113,600	1,300	101	99,000	1,100	101
二条大麦	37,600	100	100	34,400	100	100	3,180	△ 20	99
六条大麦	17,300	400	102	15,500	300	102	1,710	10	101
はだか麦	5,250	240	105	5,100	220	105	149	14	110

図5 4麦（子実用）作付面積の推移



(2) 麦種別作付面積

ア 小麦

小麦の作付面積は21万2,600haで、前年産に比べて2,400ha（1%）増加した（表9）。

このうち、北海道は12万3,400haで、他作物からの転換等により、前年産に比べて1,400ha（1%）増加した。

また、都府県は8万9,200haで、東海、九州地域等において他作物からの転換等により、前年産に比べて1,100ha（1%）増加した。

イ 二条大麦

二条大麦の作付面積は3万7,600haで、前年産とほぼ同数であった（表9）。

このうち、北海道は1,740haで、前年産と同数であった。

また、都府県は3万5,800haで、九州地域等において増加したものの、関東・東山地域等において減少したため、前年産とほぼ同数であった。

ウ 六条大麦

六条大麦の作付面積は1万7,300haで、関東・東山、東北地域等において増加したため、前年産に比べて400ha（2%）増加した（表9）。

エ はだか麦

はだか麦の作付面積は5,250haで、九州、四国地域等において増加したため、前年産に比べて240ha（5%）増加した（表9）。

表9 平成26年産4麦（子実用）作付面積（全国農業地域別）

全国 農業地域	4麦計			小麦			二条大麦			六条大麦			はだか麦						
	作付 面積	前年産との比較		作付 面積	前年産との比較		作付 面積	前年産との比較		作付 面積	前年産との比較		作付 面積	前年産との比較					
		対差	対比		対差	対比		対差	対比		対差	対比		対差	対比				
	ha	ha	%	ha	ha	%	ha	ha	%	ha	ha	%	ha	ha	%				
全 国	272,700	3,200	101	212,600	2,400	101	37,600	100	100	17,300	400	102	5,250	240	105				
北 海 道	125,200	1,400	101	123,400	1,400	101	1,740	0	100	-	-	nc	8	4	200				
都 府 県	147,500	1,800	101	89,200	1,100	101	35,800	100	100	17,300	400	102	5,240	230	105				
東 北	8,270	10	100	7,130	△	130	98	x	x	x	1,140	143	114	x	x	x			
北 陸	10,000	140	101	256		82	147	9	△	1	90	9,740	60	101	-	-	nc		
関 東・東 山	38,500	△	300	99	21,000	△	100	100	12,600	△	400	97	4,860	170	104	56	△	1	98
東 海	15,900	500	103	15,300	600	104	x	x	x	595	△	19	97	2	x	x	x		
近 畿	10,200	220	102	8,990	160	102	162	△	2	99	x	x	x	x	x	x	x		
中 国	5,050	290	106	1,830	200	112	2,730	80	103	85	△	9	90	414	x	x	x		
四 国	4,320	0	100	1,680	△	50	97	x	x	x	-	-	nc	2,620	50	102			
九 州	55,200	900	102	33,000	300	101	20,300	400	102	13	3	130	1,920	140	108				
沖 縄	23	7	144	23	7	144	-	-	nc	-	-	nc	-	-	nc				

### 3 かんしょ

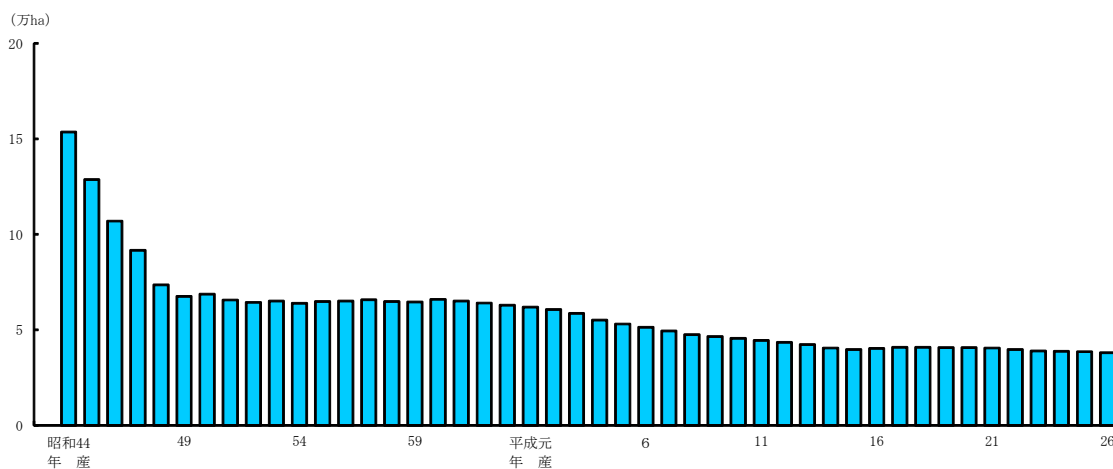
平成26年産かんしょの作付面積は3万8,000haで、前年産に比べて600ha（2%）減少した（表10）。

作付面積の動向をみると、昭和40年代はかんしょでん粉の需要低下、価格の低下等により大幅に減少し、その後は漸減傾向で推移している（図6）。

表10 平成26年産かんしょ作付面積（全国農業地域別）

全 国 農 業 地 域	計			田			畑		
	作 付 面 積	前年産との比較		作 付 面 積	前年産との比較		作 付 面 積	前年産との比較	
		対 差	対 比		対 差	対 比		対 差	対 比
	ha	ha	%	ha	ha	%	ha	ha	%
全 国	38,000	△ 600	98	2,810	△ 100	97	35,200	△ 400	99
北 海 道	14	3	127	6	0	100	8	3	160
都 府 県	38,000	△ 500	99	2,800	△ 100	97	35,200	△ 400	99
東 北	223	△ 22	91	32	6	123	191	△ 28	87
北 陸	696	△ 4	99	88	4	105	608	△ 8	99
関 東・東 山	12,400	△ 200	98	361	△ 8	98	12,000	△ 200	98
東 海	1,610	△ 100	94	94	△ 16	85	1,520	△ 80	95
近 畿	792	△ 32	96	400	△ 19	95	392	△ 13	97
中 国	880	△ 29	97	174	△ 13	93	706	△ 16	98
四 国	2,020	△ 40	98	264	△ 12	96	1,760	△ 30	98
九 州	19,100	△ 200	99	1,390	△ 30	98	17,700	△ 200	99
沖 縄	263	11	104	2	△ 6	25	261	17	107

図6 かんしょ作付面積の推移



#### 4 そば（乾燥子実）

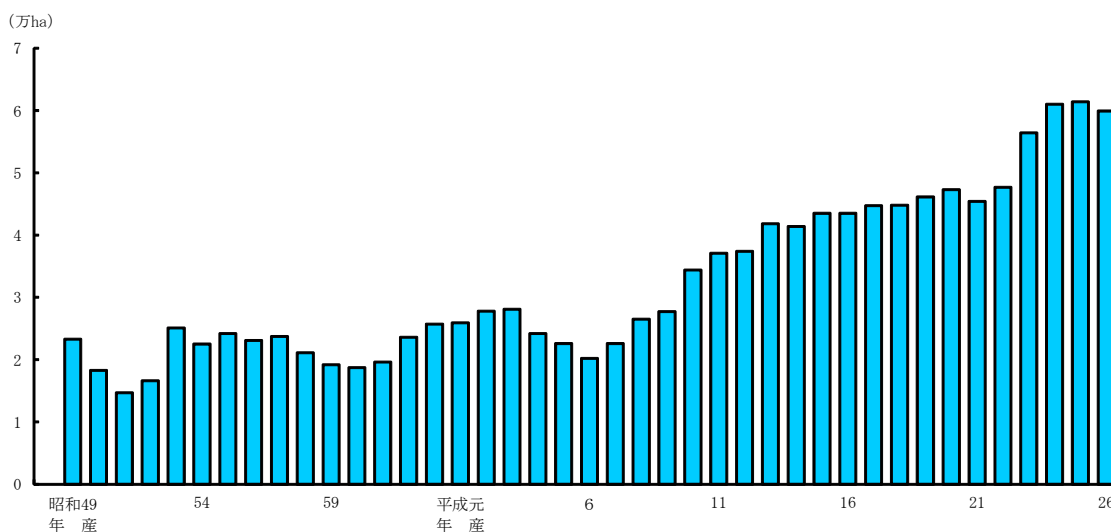
平成26年産そばの作付面積は5万9,900haで、前年産に比べて1,500ha（2%）減少した（表11）。

作付面積の動向をみると、昭和61年以降増加傾向で推移した後、米の生産調整目標面積の緩和措置等により平成4年から平成6年までは減少したものの、平成7年以降は米の需給調整対策の推進等により再び増加傾向で推移している（図7）。

表11 平成26年産そば（乾燥子実）作付面積（全国農業地域別）

全 国 農 業 地 域	計			田			畑		
	作 付 面 積	前年産との比較		作 付 面 積	前年産との比較		作 付 面 積	前年産との比較	
		対 差	対 比		対 差	対 比		対 差	対 比
	ha	ha	%	ha	ha	%	ha	ha	%
全 国	59,900	△ 1,500	98	37,500	△ 1,700	96	22,400	300	101
北 海 道	21,600	△ 600	97	9,260	△ 700	93	12,300	0	100
都 府 県	38,300	△ 800	98	28,200	△ 1,100	96	10,100	240	102
東 北	15,800	△ 400	98	12,300	△ 500	96	3,450	60	102
北 陸	6,140	△ 270	96	5,630	△ 290	95	513	29	106
関 東・東 山	10,400	200	102	5,670	100	102	4,720	60	101
東 海	545	△ 59	90	422	△ 62	87	123	3	103
近 畿	951	△ 69	93	x	x	x	x	x	x
中 国	1,640	△ 20	99	1,410	△ 60	96	229	36	119
四 国	165	△ 1	99	82	△ 4	95	83	3	104
九 州	2,650	△ 190	93	1,750	△ 220	89	x	x	x
沖 縄	42	15	156	-	-	nc	42	15	156

図7 そば（乾燥子実）作付面積の推移



## 5 豆 類（乾燥子実）

### (1) 大 豆

平成26年産大豆の作付面積は13万1,600haで、他作物からの転換等により、前年産に比べて2,800ha（2%）増加した（表12）。

作付面積の動向をみると、昭和40年代は外国産大豆の輸入の増加により減少傾向で推移した。その後、昭和53年から米の転作作物として田作大豆を中心に増加したものの、昭和63年以降は減少傾向で推移し、平成6年には過去最低の6万900haとなった。平成7年から平成15年までは米の需給調整対策の推進等から再び増加傾向で推移していたが、平成16年以降は上下動のある動きとなっている（図8）。

### (2) 小 豆

平成26年産小豆の作付面積は3万2,000haで、前年産に比べて300ha（1%）減少した（表12）。

このうち、北海道における作付面積は2万6,300ha（全国の約8割）で前年産とほぼ同数であった。

一方、都府県の作付面積は5,700haで、前年産に比べて360ha（6%）減少した。

### (3) いんげん

平成26年産いんげんの作付面積は9,260haで、前年産に比べて140ha（2%）増加した（表12）。

このうち、北海道における作付面積は8,540ha（全国の約9割）で、前年産に比べて160ha（2%）増加した。

一方、都府県の作付面積は717haで、前年産に比べて29ha（4%）減少した。

### (4) らっかせい

平成26年産らっかせいの作付面積は6,840haで、前年産に比べて130ha（2%）減少した（表12）。

このうち、千葉県における作付面積は5,300ha（全国の約8割）で、前年産に比べて60ha（1%）減少した。

図8 豆類（乾燥子実）作付面積の推移

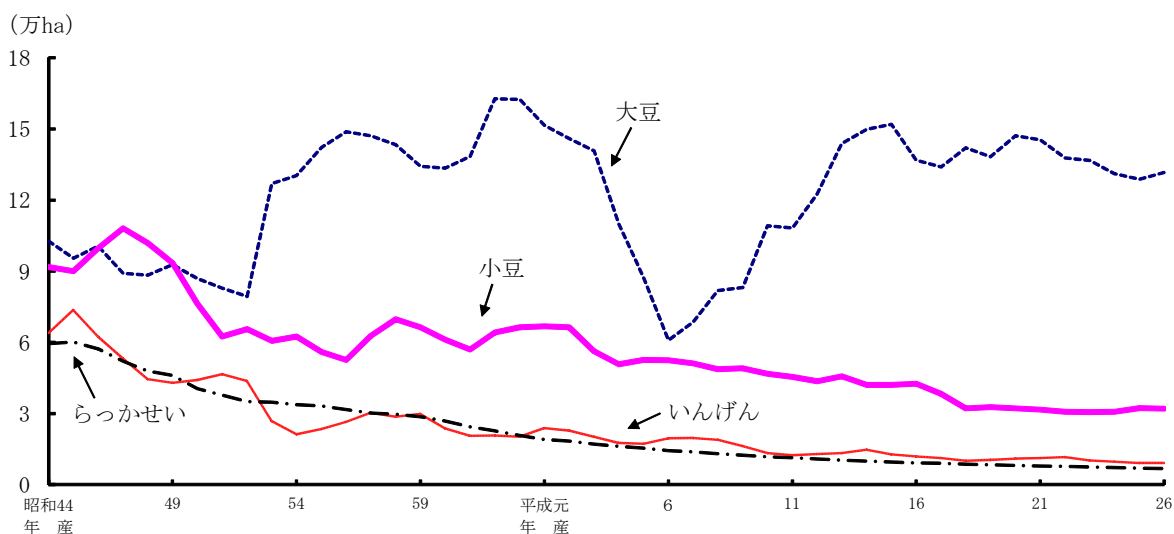


表12 平成26年産豆類（乾燥子実）作付面積

全 国 農業地域	大 豆			小 豆			いんげん			らっかせい		
	作 付 面 積	前年産との比較		作 付 面 積	前年産との比較		作 付 面 積	前年産との比較		作 付 面 積	前年産との比較	
		対 差	対 比		対 差	対 比		対 差	対 比		対 差	対 比
	ha	ha	%	ha	ha	%	ha	ha	%	ha	ha	%
全 国	131,600	2,800	102	32,000	△ 300	99	9,260	140	102	6,840	△ 130	98
北 海 道	28,600	1,800	107	26,300		100	8,540	160	102	-	-	nc
都 府 県	103,000	1,000	101	5,700	△ 360	94	717	△ 29	96	6,840	△ 130	98
東 北	32,100	△ 100	100	1,390	△ 150	90	119	△ 8	94	8	x	x
北 陸	12,600	0	100	369	△ 17	96	87	△ 1	99	30	△ 3	91
関 東・東山	10,300	△ 300	97	1,110	△ 60	95	484	△ 18	96	6,370	△ 110	98
東 海	11,800	100	101	136	△ 6	96	4	0	100	104	△ 9	92
近 畿	9,350	220	102	1,300	△ 70	95	3	0	100	5	0	100
中 国	4,830	10	100	845	△ 29	97	16	△ 2	89	17	1	106
四 国	593	△ 8	99	111	△ 9	93	3	0	100	17	2	113
九 州	21,500	1,100	105	438	△ 27	94	1	0	100	281	△ 17	94
沖 縄	1	△ 2	33	-	-	nc	-	-	nc	7	0	100

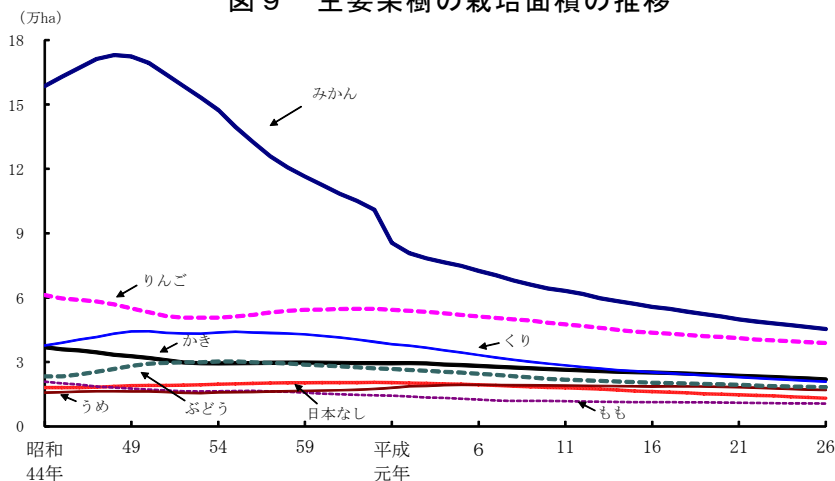
6 果 樹

平成26年果樹の主な品目別の栽培面積は、みかんは4万5,400ha、りんごは3万8,900ha、かきは2万1,900ha、くりは2万800haで、前年に比べてそれぞれ900ha（2%）、300ha（1%）、400ha（2%）、400ha（2%）減少した（表13）。

表13 平成26年果樹栽培面積

区 分	栽培面積	前年との比較			区 分	栽培面積	前年との比較		
		対 差	対 比	対 差			対 比		
	ha	ha	%		ha	ha	%		
み かん	45,400	△ 900	98	す も も	3,080	△ 30	99		
その他かんきつ類	27,200	△ 300	99	お う と う	4,830	△ 10	100		
り ん ご	38,900	△ 300	99	う め	17,000	△ 200	99		
日 本 な し	13,200	△ 300	98	ぶ ど う	18,300	△ 200	99		
西 洋 な し	1,630	△ 20	99	く り	20,800	△ 400	98		
か き	21,900	△ 400	98	パインアップル	493	16	103		
び わ	1,490	△ 40	97	キウイフルーツ	2,230	△ 50	98		
も も	10,600	△ 100	99						

図 9 主要果樹の栽培面積の推移



## 7 茶

平成26年茶の栽培面積は4万4,800haで、前年に比べて600ha（1%）減少した（表14）。

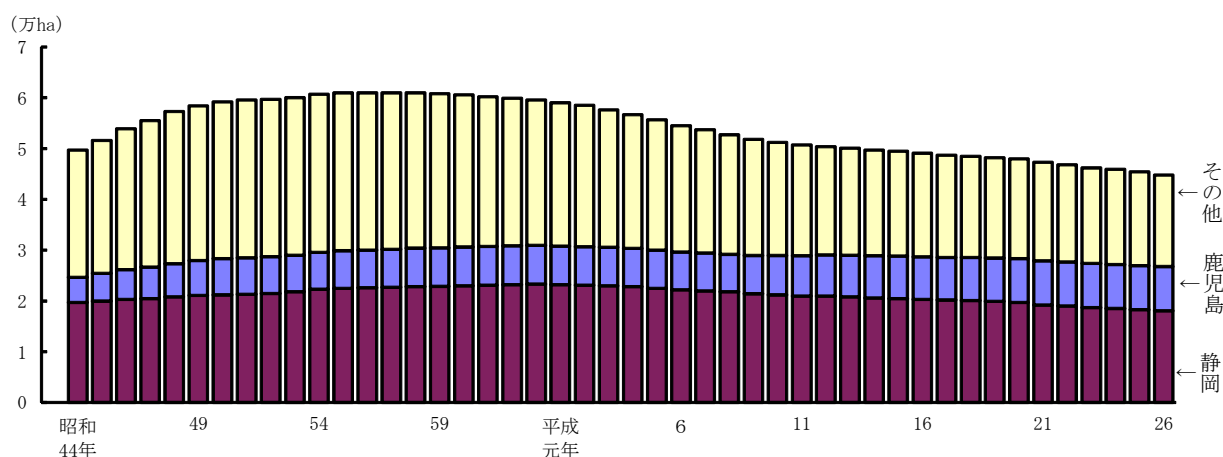
栽培面積の動向をみると、昭和50年代半ばまでは増加傾向で推移していたものの、それ以降は漸減傾向で推移している。

なお、主産地である静岡県においても、近年全国と同様に漸減傾向で推移している（図10）。

表14 平成26年茶栽培面積

区 分	栽培面積	前年との比較	
		対 差	対 比
	ha	ha	%
茶	44,800	△ 600	99

図10 茶栽培面積の推移



## 8 飼肥料作物

### (1) 飼肥料作物の作付（栽培）面積

平成26年産飼肥料作物の作付（栽培）面積は101万9,000haで、前年産に比べて7,000ha（1%）増加した（表15）。

### (2) 飼肥料作物のうち飼料用の作付（栽培）面積

平成26年産飼肥料作物のうち飼料用の作付（栽培）面積は92万4,300haで、前年産に比べて9,200ha（1%）増加した（表15）。

#### ア 牧草

牧草の作付（栽培）面積は73万9,600haで、前年産に比べて5,900ha（1%）減少した。

#### イ 青刈りとうもろこし

青刈りとうもろこしの作付面積は9万1,900haで、前年産に比べて600ha（1%）減少した。

#### ウ ソルゴー

ソルゴーの作付面積は1万5,900haで、前年産に比べて600ha（4%）減少した。



エ 青刈り麦類

青刈り麦類の作付面積は9,170haで、前年産に比べて240ha（3%）減少した。

オ その他青刈り作物（WCS用稲等）

その他青刈り作物の作付面積は3万3,200haで、前年産に比べて4,400ha（15%）増加した。

これは、主にWCS用稲の作付けが増加したためである。

カ その他飼肥料作物（飼料用米等）

その他飼肥料作物の作付（栽培）面積は3万4,500haで、前年産に比べて1万2,200ha（55%）増加した。

これは、主に飼料用米の作付けが増加したためである。

表15 平成26年産飼肥料作物作付（栽培）面積

区 分	計			飼料用		
	作付（栽培） 面積	前年産との比較		作付（栽培） 面積	前年産との比較	
		対 差	対 比		対 差	対 比
	ha	ha	%	ha	ha	%
飼 肥 料 作 物 計	1,019,000	7,000	101	924,300	9,200	101
牧 草	749,500	△ 6,200	99	739,600	△ 5,900	99
青 刈 り と う も ろ こ し	92,600	△ 400	100	91,900	△ 600	99
ソ ル ゴ ー	26,900	△ 1,600	94	15,900	△ 600	96
青 刈 り 麦 類	58,200	0	100	9,170	△ 240	97
そ の 他 青 刈 り 作 物	34,600	4,200	114	33,200	4,400	115
れ ん げ	11,800	△ 600	95	53	△ 7	88
そ の 他 飼 肥 料 作 物	45,900	12,300	137	34,500	12,200	155

図11 飼肥料作物作付（栽培）面積の推移

